

信濃川水系学識者会議 第5回下流部会 議事要旨

開催日時：平成25年8月7日（水） 13:00～14:45

場 所：MEDIA SHIP 2階 日報ホール

議事次第：1. 開会

2. 挨拶

3. 出席者の紹介

4. 議 事

①信濃川水系河川整備計画（原案）に対する意見について

②信濃川水系河川整備計画案（案）及び附図について

③信濃川水系河川整備計画案（案）の費用対効果について

④今後の進め方について

⑤その他

5. 閉 会

○議事

・信濃川水系河川整備計画案（案）及び附図について

（部会長）

➤ 全ての委員が了解した。

・信濃川水系河川整備計画案（案）の費用対効果について

（委員 A）

➤ 水害時河川の水位が高くて堤内地の水田の水をポンプアップできないため、水がはけず、農地が被害を受けるような状況がありました。その内水被害についてはどのように取り扱われているのか。

（事務局）

➤ シミュレーションでは「破堤」を想定している。あくまでも外水の評価となっている。

（部会長）

➤ 信濃川の B/C の数値はわかったが、他の河川ではどのくらいの数値になっているか。

（事務局）

➤ 近隣、他地整河川の例として、6.0～36.6 となっている。

（部会長）

➤ 流域の特性によって状況は異なる。下流域に人口集積地を抱えれば被害額は大きくなるので便益が大きくなり、B/C が大きくなるのだろう。

（委員 B）

➤ この数値の妥当性、信濃川は本来このくらいであるべきだ、というような数値の目安はあるか。数字をどのようにとらえればよいか。

(事務局)

- 数字は部会長がおっしゃったように流域の特性によって異なるが、費用に対する効果を表現しているので1を超えているかどうか判断基準となる。

(部会長)

- 将来的な議論としては、B/Cの大きいものを優先的に実施するというような比較論が出てくるかもしれないが、道路事業のようなものと防災事業とを単純に同質として扱うことについては議論の余地があると思われる。国民の生命、財産を守るという意味で防災事業は重要度が高いと考える。

・これまでの議論を振り返って

(委員 C)

- 中ノロ川も信濃川本川と同様に水系一体として管理することを強く求める。

(委員 A)

- 川に船通しが十分であれば船の往来があつて川辺に周辺の人々は関心をもつ。日常から住民が川を意識するような活動にも配慮して、今後の事業推進を図って欲しい。

(委員 D)

- 費用対効果の数値に表れない部分もきちんと見極めて、今後の事業の優先度等を考えていただきたい。

(委員 E)

- 近年、想定していたリスクがどんどん上がっていったような気がする。計画を作った後も適宜見直し等を行うことが重要である。

(委員 F)

- 川を走る風「川風」が街に及ぼす影響を研究している。川があるまちの良さを市民側も意識しながら暮らしていくことが重要なのではないかと思う。

(委員 G)

- かつて舟運による上下流域の交流があつたことを踏まえ、今後も交通の観点から検討をしていただきたい。
- 川の水がきれいになれば景観も変わってくる。水質改善の努力をしていただきたい。

(委員 H)

- 排水機場と排水路を新たに整備してもらえるとありがたい。
- 整備計画は十分にまとめられており私から言うべきことは特にない。

(委員 B)

- 計画案は網羅された内容となっていると思う。国土交通省としてはハード整備がメインになるのであろうが、記載されているソフトの部分についてもきちんと推進していきけるよう配慮いただきたい。

(委員 C)

- 住民意見等、よく反映されている。利用されていない水辺の楽校があるが、手直しすればよいものになるのではないか。何らかの対策をとっていただきたい。

(部会長)

- 住民説明会への参加者は下流が少なかった。関心を持ってもらえるように働きかけをしていくことが重要である。

以上